

アイデアを生み出す秘密の特訓

黑須和清

「お仕事は何ですか?」と聞かれ、一言で答えられない稼業の私である。

「ある時や工作の先生、ある時やさし絵画家、またある時や劇団の團長、普段はしがな  
い紙粘土人形作家、でもペー・パー・クラフトもやつてるよーん！」まるで多羅尾伴内であ  
る。ただこの中のどれにも共通している事、それは「アイデアを生み出している」事だ。

最近私は自分を『クリエイター(創る人)』と呼ぶ事を気に入っている。

さて、私が今この仕事でどうにか飯が食えているのは、実は大学時代ある秘密の特訓をうけたお陰なのである。まるでスポーツ劇画みたいでぎょうぎょうしいが、大学で出会つた一つの授業、『発想法』という授業が今日の私を作ってくれたと言つても過言ではないのだ。「この授業を行つてゐる所は日本に三か所しかない。君達は選ばれた者達だ。これ

からのデザインは技術ではない。技術やテクニックを学びたければ他の美大へ行く方がはるかに上達する。君達はそういう技術者になるのではなく、そういう者達を統合し、組み合わせてすばらしい物を成せる者になつてもらいたい。発想法とはそれを鍛える授業だ。」その授業の担当の高山正喜まさき久先生の開口一番の言葉は私達のエリート意識をくすぐつた。

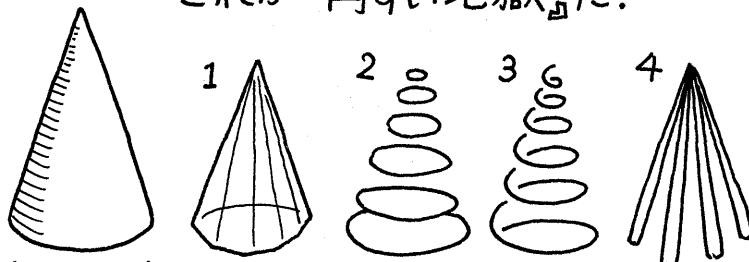
が、その後から、「無間地獄」の始まりだった。先生は私達が各自用意したケント紙を、縦五横一〇の合計五〇の枠<sup>枠子め</sup>目に区切らせた。そして言った。

「先ず自分の好きな立体を一つ選べ、決めたらそれを一番左上のマスに描け。」私達は言われるままに描いた。私は「円すい」を選んだ。先生は言つた。

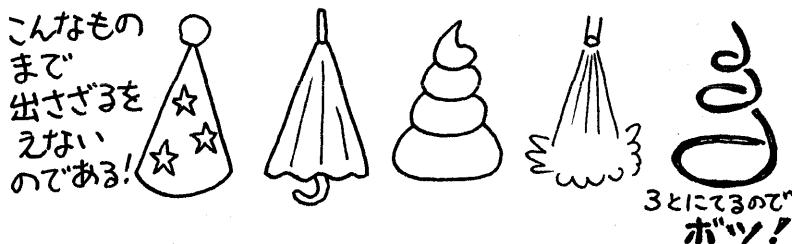
「さて、来週までに『見た時に今決めた立体を連想させる絵』を五〇通り描いて残りのマスをうめてこい。これは毎週五〇ずつ一年間続ける。多い分には構わない。ただし、イメージの似た物はチェックして除く。以上、では今日の授業はこれまで、サラバじゃ、ワハハハハハ……」ぼう然とする私達を残して先生はどこへともなく立ち去った。(多少の脚色あり)

図を見て、いただく方がわかるが、正に「円すい地獄」の始まりである。毎週五〇通りはハードである。けれど人間やればできるもので、二五〇位(ぐる)は軽く誰もが出せる。だがその先のつらさ！ 街を歩きまわり、見る物全てを円すいに結びつけようとする。似た物も多くなり、それらは無情にハネられる。五〇描いた内、三〇しかOKにならない時もある。

これが“円すい地獄”だ!



((円すい)) こういうものを毎週50コずつ描いていく



これだけならまだ良い。鬼コーチはこれ以上に毎回一筋縄ではいかない難題を次々課していくのだった。

○飛行機がバナナに変身する過程を五コマで描いて来い。同様に二つの全く関係ない物を五コマで変身させてこい。

○三枚の正方形のボル  
ル紙を絶対はずれな  
い様におしゃれにつ  
ないでこい。ただし  
接着剤は使ってはな  
らない。

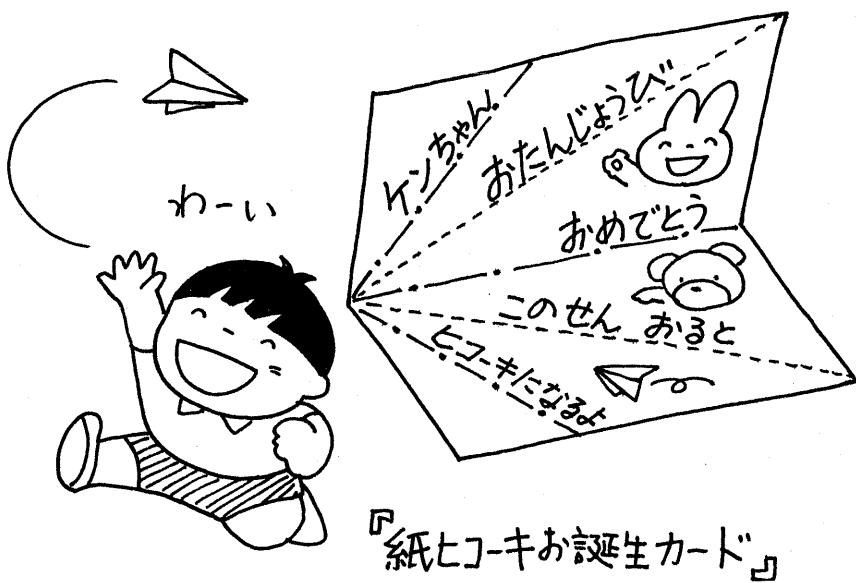
なるように切り開け。

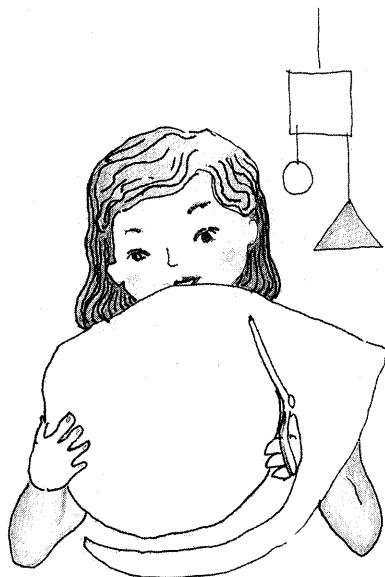
○ハガキ一枚で、高さ四〇cm以上、多少の風にはビクともしない塔を作つてこい……etc。

まるで一休さんとおじょうさんの知恵比べ、怪人二十面相の仕掛けの謎を解く明智探偵の如く、いかに先生を「うーむ」と言わせるか、大学生なのにまるで小学生の様にこの難解な宿題に追われる毎日が続いた。結局、枯れ葉散る秋、円すい地獄は八五〇でキブアッブ！他の課題も一つ二つを除いてはほめられる事も大してなかつたが、知らぬ間にこの特訓は私の頭をグニャグニヤに柔かくしていただいたのだった。

アイデアといふものは、無い所から生み出すものではなく、世の中にある色々な事を上手につなげて作るものなのだ。つなぎ方がうまくいった物がいいアイデアと呼ばれるのである。そのヒントになる事柄はまるで夜空の星の如く無数に存在している。そこをのぞく窓を広く開ければそれだけ多くのヒントが見える。ヒントは多い程、つないでできるバリエーションは増え、当然いいものが生まれる率も高くなる。見る物全て円すいにならんかと探しまわっていたあの苦しみが、私にその窓をいつでも広々と開ける癖をつけてくれた。そして飛行機をバナナにしたり、のり無しで紙をつないだり数々の無理難題に苦しめられたお陰で、私はどんな無関係そうな事柄同士でも上手に組み合わせられない事はまず無いという自信をもつてそれにチャレンジできる様になった。「頭を柔かくする事」とは「色んな事柄を広く材料として見る事ができ、それらを組み合わせるのに不可能を感じず

性のものではなく訓練してできるものなのである。ケンちゃんにあげる誕生カードを考える時、今までにある誕生日カードしか窓から見えてなければ新しい物など生まれない。それでもっと窓を拡げ色々な物を見てみる。すると「ケンちゃんは飛行機が好き」「工作も好き」と「喜ばす」ためのヒントがいくつも拾えてくる。そうなれば図の





(クリエーター)

様な「紙ヒコーキ誕生カード」なんて物がスッと生まれてくる事があるわけだ。  
この特訓に興味を持たれた方は手始めに丸い物をいくつ思いつけるか等やってみると  
いかかもしれない。リンゴ…太陽…アンパン…お金…街を歩いていて丸い物が気になつてく  
る様になれば、あなたのヒントの窓が少しづつ開く癖がついてきた証拠である。  
「偉そうに、人のフンドシで相撲をとるな！」  
鬼コーチ高山先生に言われそうである。